

令和6年度 東江地区福祉活動計画評価表

スローガン	つ長良まいか 心と心のまち 東江
-------	------------------

重点課題	東江地区社協活動の情報が行き届いていない	
事業名	推進方法	評価
東江地区社協普及啓発	①東江地区社協だよりを発行 ・地区社協の活動報告や行事の案内をお知らせする情報紙を年数回発行する。 ・事業の実施以外にも、学校行事や関係団体の紹介や啓発記事を掲載する。 ・役員間でSNS（LINEなど）を使い、地区社協として発信できる情報を共有し、掲載記事を検討する。 ・地区全体に周知するため全戸配布する。 ・編集作業に負担が大きいため、役員で協力する。また編集の担い手の増員をする。	×
	②東江地区社協の啓発用品を活用 ・身近にある住民が必ず寄る場所（ゴミステーションなど）に設置された掲示板を有効に活用し、地区社協や地域の行事をお知らせしたりして、情報を提供する。掲示板から提供された情報が、住民同士の会話のきっかけとなるようにタイムリーな情報を掲示する。 ・各自治会長にさまざまな情報の掲示や活用を再度お願いする。	×

現状及び今後の方針	
①計画的に事業、行事が実施できなかったこと、また、担当がすべての事業、行事に参加することが難しかったこともあり、発行できなかった。編集の負担も大きく、記事、写真等のデータの提供や編集作業への協力をいただきたい。また担当者の増員も必要。サロン通信やチラシとあわせて発行していきたい。 ②地区に設置した啓発用の看板の使用ができていない。引き続き、自治会を通じて、看板の活用を再度お願いしていく。自治会単位の情報は、広報や回覧板ではできているところもあるが、地区全体の情報発信ができていない。	

重点課題	高齢者への見守りが不十分である	
事業名	推進方法	評価
高齢者の安全確保	①ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯の見守り ・75歳以上、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、年末見守り訪問を実施する。 ・高齢者を対象に、高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」を開催する。 ・実施にあたって自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力をいただき開催する。 ・民生委員児童委員、福祉推進委員を中心とした平素からの見守りを継続する。	○
	②生活安全教室 ・交通安全教室を実施し、地域の事故防止のため住民に参加を呼びかける。 ・海津警察署の協力を得て、多世代が聞いてもわかりやすい交通安全を学ぶ。 ・悪質商法などを消費生活講座で学ぶ。	×

現状及び今後の方針	
①自治会ごとに自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員など、関係者で見守りを行った。高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」は開催しなかったが、年末に見守り訪問を行った。お菓子を配布し好評であった。 ②小学校の閉校もあり、サロンと共催しての開催を検討したが、日程が折り合わず開催できなかった。平素からの見守り体制は、今後も継続していきたい。	

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 東江地区福祉活動計画評価表

スローガン	つ長良まいか 心と心のまち 東江
-------	------------------

重点課題	子どもの登下校が危険である
------	---------------

事業名	推進方法	評価
子どもの見守り	①東江地区子ども見守り隊 ・小学校からの要請に基づき、見守りの体制を整える。 （集合場所、送迎ルート、送迎時間の確認が必要。各自治会への周知が必要。） ・安心して児童、生徒が登下校できるよう、地域住民が協力して見守り活動に参加する。 ・東江地区社協が主体になり、地域住民に見守りを呼びかける。 ・登下校の時間帯以外でも、畑仕事や散歩しながらでも、気軽に見守り活動に参加していただけるよう工夫する。（車の中にベストを吊るすなど） ・見守り活動の際には、防犯の啓発も兼ねて見守りベストを着用し活動する。また、必ず見守りベストを着用するように周知する。 ・見守りボランティア活動への参加を更に周知する。	△

現状及び今後の方針
東江小学校が閉校となったが、できる範囲内で、農作業をしながら、ゴミ出しをしながら等、登下校の見守りを行った。協力体制や見守り体制など、地域により温度差があるため、海津小学校からの要請により、今後も見守りの体制を整えていく。

重点課題	世代間のつながりが乏しい
------	--------------

事業名	推進方法	評価
世代間交流事業	①サロン東江の開催 ・月1回サロン東江を開催する。 ・サロンへの参加を呼びかけるとともに、積極的に参加する。 ・月ごとに、地区内の各自治会集会所で持ち回りで行うなど、開催場所を工夫し、参加者を増やす。 ・高齢者に限らず、子どもや働く世代が参加できるように、開催日時についても検討する。 ・地区社協として、地域での交流が広がるように、サロンを積極的に推進する。 ・サロン通信、案内チラシを発行する。自治会へ配布する。 ※地区社協として、自治会での近隣ネットワーク、サロン、いきいきクラブなどでの三世代交流を推進する。情報提供や参加への勧奨など、地区社協で協力できることを実施する。	○

現状及び今後の方針
月1回、サロン東江を開催し、交流の場を設けた。参加者が少ない時もあり、今後も自治会の協力を得ながら、周知や啓発に努めていく。高齢者に限らず、子どもや働く世代が参加できるように、開催日時についても検討する。10月に開催した軽スポーツ交流会は初めての試みであったが、参加者も多く好評であったため、次年度以降も継続していく。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった